

『打って反省、打たれて感謝』

山口県

美峰剣友会

中学2年 阿部 日南乃

小学校一年生の時に剣道を始めて約七年。長い間、上達する実感がわかなかった。「好きこそものの上手なり」ということわざのように、剣道を好きになれば、上手になるかと思っただ、なかなか好きになることができない。試合では、いつも負けてしまう。負けるとくやしいばかりで、相手をうらんだり、他人にやつあたりをしてしまう。

そんな時、私はある言葉に出会った。

『打って反省、打たれて感謝』

初めてこの言葉を聞いた時、何を言っているのかと首をかしげた。何より私は“打たれて感謝”の意味を理解することができなかった。この頃の私は打たれば、くやしい気持ちで泣いてばかりだったからだ。

ある日の稽古で、先生が、

「常に感謝の心を持ちなさい。」と言われた。道場や試合会場に連れて行ってくれる人。剣道を繰り返し教えてくれる先生。稽古の元立ちをしてくれる仲間。気がつけば、周りには、感謝すべき人ばかりである。試合で一本とった時も、もっといい面を打つためにはどうすればよかったか、省みることができる。また、一本とられた時には、そこに自分の隙があったことに気付かせてもらえる。試合で、負けた相手にも、試合をさせてもらったこと、打たれたことに感謝しなければならないと思うようになった。

試合に勝てないながらも日々稽古を続け、少しずつ上達してきた。毎回二本とられてすぐに負けていたのも、長い時間ねばったり、一本だけで、二本目はとられなかったりした。

六年生では、一本取れるようになったものの、その後二本取り返されることが続いた。一本取れることはとても嬉しい。しかし、結果は、負けである。やはり、勝ちたい。

私の通う道場には高校生の先輩も来てくださっていた。その先輩は、打ちが強く、早く、たくさんの試合に勝ってきた。憧れの先輩だ。

私は、先に一本とった後、どうすれば、取り返されずに勝つことができるのか相談した。

すると、次に相手が攻めてきた時の対処の仕方や竹刀の動かし方、相手との間合いなど、細かいアドバイスをくれた。あわせたり、待ったりしないで、冷静に動くこともわかった。

その次の試合で、私は、相手より先に一本をとることができた。いつもならここでもがむしゃらに打って行って相手に取り返されてしまう。二本目が始まる前、先輩に教わったことを思い出し、はやる気持ちをおさえ慎重に試合運びをした。その結果、さらにもう一本とることができ、勝つことができた。その時の嬉しさは今でも忘れない。

勝てると剣道が楽しくなってきた。少しずつ自信が持てるようになり、苦痛だと思って

いた稽古も、試合を想定しながら仲間と一本を取り合うとおもしろくなってきた。そのきっかけをくれた先輩にとっても感謝している。

ある試合会場で靴がバラバラになっていた。試合の待ち時間中に同じ道場の仲間が一生懸命、その靴を一足一足そろえていた。後日、稽古の時に先生は、その時の話をされ、その仲間に「お前は、絶対に強くなる。」と言われた。私にもできそうなことだった。私は学校で、トイレのスリッパをそろえるようになった。そろっているとやはり、気持ちがいい。私がいつもスリッパをそろえていると、「私もやろう。」と言って友達もしてくれるようになった。気がつくとも私達のクラスのトイレのスリッパはいつもそろっているようになった。剣道が強くなったわけではないが、剣道をしていてよかったと思った。

剣道で、負ける側の気持ち、勝てる側の気持ちを体験し、自分の持っている力を出しきれた試合では、勝敗に関係なくとても楽しい。

負けた経験がたくさんある分、勝った時に相手の気持ちがよくわかる。勝っても負けても相手を賞賛できるようになった。常に剣を交える相手に感謝し、剣道を楽しみたい。